



やまもり☆ホッピングランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』



第474回 3/4(火) 「サークル ありんこ」

出演 大和市子ども会連絡協議会(市子連)会長 小川陽子さん

「サークルありんこ」は、子ども会や地域のイベントを盛り上げる中高生が中心の集団で『1匹の小さなアリもたくさん集まれば、大きな力に変わりなんでもできる』という意味です。

市子連は市内の25単位子ども会が加入していて、各々の子ども会はブロックに分かれて、地域に密着した活動を行なっています。子ども会同士の情報交換の場の提供、活動で生かしてもらえるようなレクレーション研修会や安全教育研修会を開催。ブロックを越えた活動として、大和市民まつり参加やかるた会があります。小川さんが、ありんこのジュニアリーダーのみなさんを見守る中で心がけていることは、こちらの想いを押し付けないようにして子どもたちを信じて見守るということ。子どもたち同士で育ちあうというか、子どもたちは自分で気づく瞬間が必ずある。だから子育てというより子育ち、その現場にいられるというのがすごく嬉しい。これからも忍耐の中、信じて応援していきたい。



☆4月の出演 第476回 4/1 タムタムランニングクラブ 第477回 4/15 グロリアのスペイン語 第478回 4/29 柏木学園高等学校
FM やまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00~9:30 同日再放送 15:00~15:30

TSUBASA's トーク 第41回 ブラインドマラソンの体験



東京の代々木公園で行われた日本ブラインドマラソン協会の練習会に参加した。ブラインドマラソンは、目に障がいのある人たちのスポーツで、視覚障がい者と健常者の人とが短いロープをお互いに持って行う、レースやジョギングのことだ。

簡単に受付を済ますと、荷物をブルーシートに置いて待っておくように伝えられた。20-30人くらいの規模の運営と参加者で、ブラインドランナーはそのうち10人弱くらい。

今回参加しようと思ったきっかけは、京都マラソンに参加してより好きになったランニングを、市民活動センターでの経験もいかして一つの形にしたいという思いがあった。

練習会の準備体操が終わるとまずは説明で、視覚障がいにも視野やまぶしさなど様々な見えにくさがあり、相手に合わせた支援が大事、と背景を聞いた。実際やってみると、全然思うようにいかない。最初と一緒に歩く練習でさえ、腕を振る方向が合わず、右手と右足が同時に前にでるしまつ。少し慣れて走り出すことは何とかできたが、ブラインドランナーの相手に「カーブを走るときには腕ふりを止めないで。あと10メーター先で曲がる、とかもっと早く声をかけてくれないとわからない」と、結構強気な口調で言われ、僕は息切れをして「はい」と答えた。



別日の研修では、非常にラッキーな出来事もあった。アテネパラリンピックの金メダリスト、高橋勇市さんと走る機会をいただいたのだ。練習では僕のような素人に、カーブを予告するタイミングや、スタートの仕方を1つずつ教えてくれて、ほかのブラインドランナーよりもスピードを出してくれた。見えていないのにこんなに速く走って、怖くないの?と、はらはらしながら走らせてもらった。

日本ブラインドマラソン協会は山田電機の創設者が作った山田昇記念財団の助成を受けて活動している団体で、東京狛江市から視覚障がいの認知とブラインドマラソンを普及できるように設立されたそうだ。協会の方とのランニング中にも、「視覚障がい者の方が走ることを始めて、光が差し込んだように生活が変わった人たちを何人も見てきた」と聞いた。

会社員になるまでは意識していなかったが、こうした普及には市民活動だからこそできる感じがあって好感を持てた。社会貢献をする方々とのコミュニケーションも刺激になり、4月末の霞ヶ浦のマラソンに伴走者として参加予定の方々とも、練習のたびに「また会いましたね」と顔を合わせたりして、いろいろな方々に出会うきっかけになった。少しずつ練習会への参加を続けて、いつか伴走者としてレースに出てみたい。



サポーター 犀畠翠

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第213号 発行日: 2025年4月10日

発行: 大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

-4-

TEL: 046-260-2586 FAX: 046-205-5788
e-mail: yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/



あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手
この手

あの手この手のマークの間にSはsolution(解決)のSです。

第213号 2025年4月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

4月号
2025

ベテルギウス玄関
4月1日の生け花



第17回テーマ: 「守りたい、平和な世界」

画廊喫茶オルセー賞受賞

プロコピィシン・ザハール さん (ウクライナ) 緑野小学校 (当時) 3年

タイトル: 「はやく なかよく」

ひとことメッセージ: ウクライナとロシアは今、戦争をしています。
ウクライナにいる家族に早く会いたいです。

表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)主催<やまと国際アートフェスタ>の入賞賞作品を毎号掲載しています

ウクライナに残って離れて暮らす家族を思いながら、日本で暮らすザハール君。2つの国が、早く仲良くなってほしいと願う気持ちが絵を通して伝わってきます。この表紙絵が、ザハール君にとって、小さな光となりますように…。

やまと国際フレンドクラブ 代表 長谷部美由紀

☆「やまと国際アートフェスタ」は、「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)の主催で毎年開催されています。

☆「IFC」は、草の根の国際交流、外国人支援を行っている、「ともにくらすまち大和」を考えるボランティアグループです。

もう20年…思い出いっぱいの“市民活動センター”

この協働事業（「つながり推進課」旧市民活動課と「拠点やまと」の大和市民活動センター管理運営事業）は先日設立20周年の行事を終えましたばかりです。でも過去を振りかえってばかりではいけません。

一時“補助金扱い”となりましたが、この協働事業も3年ごとに継続更新してきました。「ここに来れば何かがある!」「ここに来ればだれかに会える!」設立以来このイメージを頭に入れて活動を続けています。

「新しい公共」に沿って活動をしていますが、具体的な呼びかけとしては

- 一活動のために使って下さい
- 一情報収集に活用して下さい

- 一交流の輪を広げて行きましょう
- 一市民事業・協働事業の発展に力を注ぎます
- 一活動情報の受発信に努めます

- 一皆さんと交流の“わ”を広げて行きましょう
- これからも“地域の枠を取り除いた活動拠点”として歩んで行きます。



-1-

「あの手この手」表紙から雑感

市民活動の過去、現在、未来 その2

大和市民活動センターは、共に育ち、共に成長する共育(ともいく)の場として 2004 年 11 月に誕生した、「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に謳われた「協働の拠点」です。

それから 21 年目、世の中は移ろっているけれど、市民活動センターの果たすべき中間支援の役割は、普遍にあると思います。ただその手法は、世の中の流れの速さとあいまって、変化をしないといけないと思いますが、それがなかなか難しいというか、対応できていないというのが、市民活動の現場かもしれません。

SNS を介しての情報共有、ZOOM などを利用しての場に集まらなくても、時間を提供すればよいミーティング形態など、グループ、団体が運営方法や内容などを協議する方法はある意味便利になりました。一方 AI の普及によって、さまざまな情報にみんなが簡単にアクセスして、溢れている膨大な情報をだれもが手に入れることができます。

このように、見た目は急速に便利になっている生活環境思えても、日本社会は、超急速な少子高齢化、円安、賃上げの流れはあっても中小企業は対応できない、学校現場では、ひきこもり、不登校といった課題が特別なことではなくなるなど、公的セクターだけでは解決できない社会課題に溢れるようになってしまいました。今号では過去の「あの手この手」をふりかえりながら、現状へのヒントはないか、当時の文章から雑感を記します。

編集文責: 船越 英一



第17号(2008年6月25日)

夏休み。小中高校生向けに、さまざまなボランティア活動への導入の企画を提供していた。現在の「このゆびとまれっ」の原型が見て取れる。体験をとおして、個々に気づきがあるとうれしいな。

内面には印刷機、紙折り機、コピー機、プロジェクター、スクリーンなど利用できます。とありました。こうした活動支援も大切な役割です。

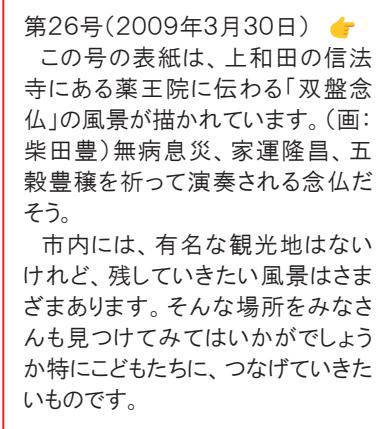


第24号(2009年1月15日)

第二次大戦中、さがみ野駅北側にあった高座海軍工廠(日本海軍の航空機生産工場)に、台湾から約 8,000 人の若者が来日し働きましたが、この元少年工が経費を出し合い「第2の故郷に平和と友好のシンボルを」と建設し、1997年に市に寄贈されたのが、イラストの東屋です。

その後の手入れは十分ではなく、傷んでいますが、台湾の文化の一端を感じることができます。みなさんも一度出かけてみては?

本市に在住する外国籍住民は 88 の国と地域 8,700 人を超えていました。(2024年12月31日現在)多様なルーツの方が生活する町です。



第26号(2009年3月30日)

この号の表紙は、上和田の信法寺にある薬王院に伝わる「双盤念仏」の風景が描かれています。(画: 柴田豊)無病息災、家運隆昌、五穀豊穣を祈って演奏される念佛だそう。

市内には、有名な観光地はないけれど、残ていきたい風景はさまざまあります。そんな場所をみなさんも見つけてみてはいかがでしょうか特にこどもたちに、つなげていきたいものです。



第16号(2008年5月30日)

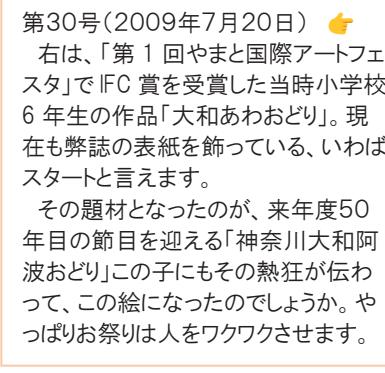
巣民活動センターと記された表紙のイラスト。時期的には燕が子育てをしている時期だけ。「市民のみなさんと共に育ちあう」というメッセージが込められていると思うけど、現在の市民活動は、構成メンバーの高齢化も言われている。若い人たちが、手続きの大変な市民活動を選ばないとも。多様な入口が求められている。



第17号(2008年6月25日)

右は、「第1回やまと国際アートフェスタ」で IFC 賞を受賞した当時小学校 6 年生の作品「大和あわおどり」。現在も弊誌の表紙を飾っている、いわばスタートと言えます。

その題材となつたのが、来年度 50 年目の節目を迎える「神奈川大和阿波おどり」この子にもその熱狂が伝わって、この絵になったのでしょうか。やっぱりお祭りは人をワクワクさせます。



第30号(2009年7月20日)

右は、「第1回やまと国際アートフェスタ」で IFC 賞を受賞した当時小学校 6 年生の作品「大和あわおどり」。現在も弊誌の表紙を飾っている、いわばスタートと言えます。

その題材となつたのが、来年度 50 年目の節目を迎える「神奈川大和阿波おどり」この子にもその熱狂が伝わって、この絵になったのでしょうか。やっぱりお祭りは人をワクワクさせます。

さまざまな相談(市民・NPO 活動、ボランティア活動等)お待ちしています

「相談事業」は市民活動センターの大きな柱です。窓口を通して、またメールやインターネットを通して行っています。「NPO の立ち上げ・申請」などの話し合いの必要な相談や「ちょっと PC が動かないんですけど」、「イベントのチラシや印刷などどうすればよいですか」など、活動を始めたばかりの団体などからは、さまざまな相談が持ち込まれます。

これまでに、こんな相談がありました

- NPO 法人と一般社団法人のどちらがよいですか。設立手順を知りたいです。
- 障害を持った人たちへのよか活動支援をしたい。現在は一人、仲間はいない。障害を持った人からは参加費をもらい辛いので、補助金、助成金の申請も考えている。もしもの時の保険も心配。
- これまで法人住民税を支払ってきたが、NPO 法人は収益事業者になるのか教えてください。
- 子ども食堂を運営しているが横のつながりがまったくない。活動団体同士の話合いの場を持つにはどうしたらよいですか。
- コロナのため、NPO 法人事業が停滞している。5 年先、10 年先を見据えて、運営を見直していくので、アドバイスをいただきたい。
- ハイブリッド方式で総会を開きたいが、どうしたらよいですか。
- 自分たちの活動を PR する動画を制作したいが、方法を教えてください。



市民活動センターは、「ボランティアをしてみたいけど、どうやったらいいのかわからない」という人と団体をつなぐ相談業務も行っています。

ボランティア相談には幅広い年齢の方がいらっしゃいます。その想いもさまざまで、「定年したので地域活動をしてみたい。」「社会との繋がりを持ちたい。」中には「受験前に内申書に記入したいから」と正直に打ち明けてくれる学生も。

でも、入り口はどこからでもよいと思います。ボランティアに参加するまでは気づかなかったことを知り、活動の場で得られた喜びや感動はこれまでの日常生活に変化をもたらすでしょう。人との繋がりによって体験する喜びは社会で生かされていく自分の視野を広めてくれるかもしれません。はじめは勇気がいることですが、まずドアをノックしてみてください。個人のニーズに合ったボランティアに繋ぎたいとスタッフ一同思っています。



「大和市民活動センター20年のあゆみ」(2025年2月16日発行)より抜粋改編転載

令和6年度協働事業パネル展

3月の展示コーナー

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。



令和6年度協働事業一覧 ●**行政提案型:** ①大和市民活動センターの管理運営(拠点やまと・市民活動課(つながり推進課))、②みんなでつくる安心のまち事業(大和女性防犯会・生活あんしん課(市民生活あんぜん課))、③地域をチームに! スポーツを活用した持続可能な地域コミュニティづくり/NPO 法人やまとスポーツマネジメント/生活あんしん課(市民生活あんぜん課)

●**市民提案型:** ①障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業(NPO 法人大和市腎友会/指導室、健康福祉総務課(福祉総務課))、②家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業(NPO 法人ワーカーズコレクティブチャイルドケア/すくすく子育て課)、③ドッグラン管理運営事業(結の会/みどり公園課)、④地域で支え合う「のりあい」を走らせよう(地域と市との協働「のりあい」/街づくり総務課(まちづくり総務課))、⑤生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」(NPO 法人かながわ難民定住援助協会/国際・男女共同参画課(国際・市民共生課))、⑥地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校開放事業(渋谷きんりん未来の会/図書・学び交流課)、⑦~⑨大和市移動制約者の外出介助サービス事業(NPO 法人ワーカーズ・コレクティブケアびーぐる、NPO 法人大和市腎友会、NPO 法人たんぽぽ/障がい福祉課)

* 赤字は、2025年4月1日からの新課かい名

